

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①グローバル人材としての資質の涵養</p> <p>②持続可能な教育課程の編成と実践</p> <p>③次世代の学校教育を視野に入れた不断の授業改善</p>	<p>①世界への関心を深め、多様な存在について相互理解を深めようとする姿勢を培う。</p> <p>②バランスの取れた教育課程の実施に向け、魅力ある取組を行う。</p> <p>③よりよい授業の実践のための創意工夫を継続する。</p>	<p>①ICTの活用など、世界の人々と交流する方法を模索し、相互理解を深める。</p> <p>②話し合い活動を効果的に取り入れる授業実践や海外修学旅行などの行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を行う。</p> <p>③教科の枠を超えた研究授業を実践し、授業改善のための研究協議を行う。</p>	<p>①グローバル教育アンケートで「国際的な理解が深まった」と答える生徒が80%を超えたか。</p> <p>②話し合い活動を取り入れる授業実践や行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を効果的に実践できたか。</p> <p>③研究授業、研究協議を実践し、その成果を共有することができたか。</p>	<p>①「国際的な理解が深まった」と答える生徒87%と目標の80%を超えた。</p> <p>②話し合い活動を取り入れる授業実践ができた。</p> <p>②海外修学旅行は実施できなかったが、オーストラリア・韓国・ドイツ姉妹校交流校訪問や座間アメリカン・ハイスクールとの交流、台湾・ドイツ姉妹校生徒等80人以上の短期留学生・2人の長期留学生を受け入れた。</p> <p>③コロナ5類移行後初の公開研究授業、研究協議を実践し、その成果を共有することができた。</p>	<p>①継続的に数値の推移を観察することと併せて、生徒に考えさせるアンケート内容の検討が必要である。</p> <p>国際的な理解を深める教科横断的な取組等の推進及び行事等本校の取組の見直しや検討が不可欠である。</p> <p>②アメリカ・ニュージーランド姉妹校交流校訪問や台湾修学旅行について、再開に向けて引き続き準備を進めたい。</p> <p>③ポストコロナを見据え、研究授業や研究協議を活性化し、成果の発信方法等の研究を継続する。</p>	<p>・グローバル化が進む社会では他者と話し合い、互いに理解し合うことが必要不可欠である。</p> <p>大和西高等学校では、生徒達が、自分の言葉で語り、自分たちでスライドやビデオを作成し、さらに堂々とした態度で発表するなどプレゼンテーション能力を高いレベルで身に付けていると感じた。系統立てた授業を展開し、授業改善を継続していただいていることを実感するとともに、ありがたく思っている。</p>	<p>①生徒対象アンケート結果では「異文化理解が深まった」、「国際的な社会問題に関心を持つようになった」の回答が目標としていた80%を超えた。今後もさらなる研究を続けたい。</p> <p>②海外修学旅行は実施できなかったが、オーストラリア・韓国・ドイツ姉妹校交流校訪問や座間アメリカン・ハイスクールとの交流、台湾・ドイツ姉妹校生徒等80人以上の短期留学生・2人の長期留学生を受け入れた。</p> <p>②実施できなかった、アメリカ・ニュージーランド姉妹校交流校訪問や台湾修学旅行について、再開に向けて引き続き準備を進めたい。</p> <p>③前年度の反省を生かした公開研究授業・協議を実施できた。実施形態や内容等については前年度を継承し、課題が残った研究協議については、実施方法を変更し、改善された。また、ICT機器を有効活用した授業研究とそのノウハウの共有については継続したい。</p>	<p>①今年度実施できなかった対面による交流についても、再開に向けて進めていきたい。今後も粘り強く世界中の人と繋がる取組を継続することで、生徒の国際的興味関心を喚起する。</p> <p>②実施できなかった、アメリカ・ニュージーランド姉妹校交流校訪問や台湾修学旅行については、令和6年度実施に向けた準備をすすめている。</p> <p>③公開研究授業・協議を実施することができた。課題であった研究協議については、実施方法を見直し、改善した。次年度に向けては、授業改善に向けた取り組みを継続していきたい。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒が集中して授業に取り組むことができる学習環境の整備と学習習慣の確立</p> <p>②部活動や特別活動を通じた協調性及び人間性の向上</p>	<p>①生徒が安心して授業に集中できるよう教育相談体制の充実を図りつつ、きめ細かな生徒支援を行う。</p> <p>②部活動や特別活動における人格形成の重要性を共有し、生徒の主体的な活動を支援する体制を持続する。</p>	<p>①ケース会議や教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、SSWを効果的に活用し教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②今年度、様々な制約のある中で、部活動や特別活動の実施について、生徒と共に考える場を設けるなど、精神の成長を促す工夫を継続する。</p>	<p>①生徒による授業評価のアンケートで「集中して授業に取り組んだ」と回答する生徒の割合が増加したか。</p> <p>②部活動の加入率が増加したか。</p> <p>②部活動の定着率が80%を超えたか。</p>	<p>①生徒による授業評価のアンケートで「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」に対して肯定的な回答する生徒の割合は86%だった。(対前年比4ポイント増)</p> <p>②部活動への加入者は、5月時点で延べ659名、80%だった。対前年比2ポイント増であるが目標にはわずかに届かなかった。</p>	<p>①今後も継続的に授業改善に取り組む、生徒が集中して学習に取り組む雰囲気を醸成していきたい。</p> <p>②年度当初の部活動紹介の充実等の工夫を行い、さらなる部活動加入を呼びかける。あわせて、高い実績を上げた部活動の広報活動を充実させるとともに、生徒との協議を続けながら、意見を吸い上げより良い活動のための環境整備に努める。</p>	<p>・評価の指標にもされている、授業アンケートの「授業の在り方について」「b 単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」に対して、生徒に肯定的な回答をさせるために、具体的にはどのような取組をしているか。</p> <p>・登校時、笑顔で挨拶をしてくれる生徒もおり、日ごろの生徒指導の成果とっております。</p> <p>・部活動については、学習との両立をさらにすすめるためにも、さらなる環境整備が必要だと考える。県の予算等なかなか難しいとは思いますが今後もできる範囲ですすすめてもらいたい。</p>	<p>①ICT活用を授業や進路指導に活用することに対して抵抗を感じる職員が減った。一人一台端末の導入も2年目となり、対応もスムーズに行うことができた。</p> <p>②コロナ5類移行後は、部活動を含めた様々な生徒会活動をポストコロナの活動へ移行を図った。コロナ前を知る職員が少なく、ほぼ「ゼロスタート」のような状況であった。</p>	<p>①一人一台端末の導入3年目となるためその利活用について、学習支援Gや学年、教科、ICTワーキンググループが連携して対応を進めた。活用がさらにすすむことを考慮し、職員だけでなく生徒のモラル向上も図り、インターネットに係る犯罪やトラブルなどの事故防止を継続する。</p> <p>②ポストコロナということで、コロナ前に戻す活動とコロナ前とは違う活動とを整理し、それぞれに対して、できることから一つずつ実践する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自立した社会人となるための資質の育成 ②社会の趨勢を捉えた適切な進路指導と進路希望の実現	①高大接続改革について情報を整理し、効果的な進路指導につなげるとともに、主体的な進路実現に向けた取組を継続する。 ②学習活動コンソーシアムや多様な体験活動等の取組により、主体的な進路選択のための支援を行う。	①外部との連携を深める。生徒のニーズにこたえられるキャリアプログラムについて効果的な方法を工夫する。 ②ガイダンスや説明会、講習や補習の充実を図る。生徒の学習や進路についての悩みの相談を受け易くし、支援する体制をつくる。	①国公立や難関私立大学(早慶上理、G-MARCH)などの大学へ進学する生徒が増加したか。 ②将来の職業を見通して、進路(学校)選択をする生徒が増加したか。	①国公立や難関私立大学(早慶上理、G-MARCH)などの大学へ進学する生徒は減少した。 ②将来の職業を見通して、進路(学校)選択をする生徒が増加した。	①生徒の実情や時代の趨勢を考慮し、進路ガイダンスやキャリアプログラムの提供の仕方については、継続的な検討が必要である。 ②推薦や総合選抜を活用する生徒が増加しているが、継続的に学習に取り組ませ、一般受験に対応できる学力を伸ばしていきたい。	・多岐にわたる進路先からも、生徒一人ひとりに寄り添って、丁寧な進路指導をしていることと感じています。 ・先行きが見通せない今後の社会情勢を見据えて、生徒達にどのような指導方針でキャリア教育をしているのか。 ・生徒の進路選択に対する指導として、職業と結び付けたり、賃金などの具体的なライフプランと結び付けたりするなどしていただくと、生徒達の進路実現に対するモチベーションアップを図ることができると思います。	①生徒自身が将来の職業を意識した進路選択を主体的に行い、地道な努力を重ね、進学実績を伸ばすことができた。時代の趨勢を見極め、生徒のニーズも意識しながら、これからのキャリア支援について今後も引き続き見直すことが必要である。 ②講習や補習を充実させるとともに、個別のきめ細かい学習支援を粘り強く行ったが、次年度からは新しい教育課程の入試となることもあり、早めの進路決定を志向する生徒が多く、一般受験で希望する大学に合格する生徒を増やすことはできなかった。	①「先行き不透明な社会情勢」を視野に入れ、外部との連携を深め、生徒一人ひとりのニーズにこたえられるキャリアプログラムについて、引き続き効果的な方法を工夫する。 ②講習や補習充実をさらにすすめることはもちろん、生徒が気軽に学習や進路についての悩みを相談でき、それを支援する体制づくりを継続する。
4	地域等との協働	①地域等との連携事業を通じた共感能力や協調性の育成、及び社会の形成者としての自覚と奉仕の精神の涵養 ②地域と連動した防災体制の確立	①実施可能な地域連携の形態を工夫する。 ②地域防災の観点から、地域における学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について工夫する。	①地域の行事交流だけでなく、地域の学校等との交流を推進し、情報共有や相互理解を深める。 ②地域の防災訓練や近隣と連携した防災体制について、学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめる。	①ポストコロナを視野に、コロナ前の取組を参考に、地域との継続的な関係を維持し、進展させることができたか。 ②地域防災について、学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができたか。	①吹奏楽部による地域イベントへの参加や、美術部による地域の文化祭への作品展示など、少しずつ地域連携の取組を進めている。 ②地域防災について、生徒会役員による地域防災訓練参加等、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができた。	①今後も、地域とのつながりを大切にし、地域との連携の充実を図る。 ②発災時における地域との連携体制をいかに構築するか、また、校内での防災訓練の在り方についての検討が必要である。	・今年度は、生徒の皆さんが地域の防災訓練に参加してくれました。また、地域のお祭りや文化祭にも部単位で参加していただきました。今後も継続していけることを期待しています。 ・高校生の知識や経験を小学生の子供たちに伝え、交流できる場が設定できると、児童の学びもより深まるものと考えております。例えば、高校生による小学生向けの「SNSの正しい使い方講座」「いじめ防止講座」など。 ・中学校との交流、連携が授業、行事、部活動等の教育活動で取り組み可能な事柄があれば実施をお願いしたい。	①コロナ5類移行後は、地域連携の取組をさらに進めることができた。このことをしっかりと捉え、これまでの培った地域とのつながりを引き続き大切にするとともに、可能な活動については実践していく。 ②地域防災について、生徒会役員による地域防災訓練参加等、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができた。 ②防災マニュアルを整備し、DIGも実施することで、職員や生徒の防災意識を喚起することができた。	①これまでの培った地域とのつながりを引き続き大切にし、部活動や生徒会活動を中心に、今後も、実現可能なものから実践する。 ②近隣の防災訓練や避難所開設訓練などへの参加や近隣と連携した防災体制の構築について、今後も可能な範囲ですすめていきたい。
5	学校管理 学校運営	①適切な業務分担と進捗管理 ②学校の課題に対する意識の共有と協働体制の構築	①教職員の働き方改革を踏まえ、効率的で質の高い教育の展開に向け教職員組織の活性化を図る。 ②事故防止等の学校の課題に対する意識を職員全体で共有することができ、風通しの良い職場の雰囲気醸成する。	①グループ業務分担の見直しや勤務状況の把握を行い、適切な業務配分を行う。併せて、話しやすい職場の雰囲気醸成する。 ②各グループリーダーやサブリーダーが、主体的に互いに相談しながら、年間計画に則った適切な業務の進捗管理を行う。	①職員のストレスチェック診断で、高ストレスを抱える職員の割合が10%未満であるか。 ②時間外勤務や休日勤務を行う職員の割合が減少したか。また、職員の勤務時間の実態に、著しい偏りがないか。	①職員のストレスチェック診断で、高ストレスを抱える職員の割合は2ポイント減の10.2%であった。県全体の平均値14.8%より低かった。 ②時間外勤務や休日勤務時間が長時間となっている職員には、声掛けを継続するとともに、産業医との面談も行った。	①全体で風通しのよい職場づくりを意識した結果、高ストレスを抱える職員の割合は県全体の平均よりも低くおさえることができたが、目標にはわずかに届かなかった。 ②時間外勤務や休日勤務時間が長時間となっている職員が特定化する傾向があるので、今後も継続した声掛けや産業医による面談等を継続する。	・働き方改革の一環として、職場の電話機を留守番電話機能付きのものに切り替え、平日は17:30~8:00までを留守番電話対応とし、休日は終日留守番電話対応としています。 ・残業時間を短縮させる取り組みとして、事前に残業時間や残業業務内容を提出させ、管理職が確認できるようにしています。 ・高ストレスの職員の方が1割弱いらっしゃるとの結果に対して、きちんと対応をお願いします。	①コロナ5類移行後も、職員間の連携を強化し、一人でストレスをため込まないような体制を創ることができたことは良かったと思う。今後もこの状況を継続し、さらなるストレスの軽減に努めたい。 ②産業医との面談も積極的に行うなどにより、職員の健康管理に努め、ストレスを一定程度軽減することができた。次年度は業務の偏りの改善について、グループ業務の見直しについて、取り組む必要がある。	①衛生委員会が中心となり、職員間の連携を図り、職員が互いに相談しやすい職場の雰囲気をつくることの重要性を共有することができた。また、関連する業務での担当者間でのコミュニケーションを適切にとり、十分に話し合うことのできる体制づくりを継続する。 ②企画会議を母体に、積極的に業務分担や配置等の見直しを継続し、業務改善を行う。